

令和2年度（2020年度）学校評価報告書

北海道弟子屈高等学校長 濱 村 隆 康

次のとおり令和2年度（2020年度）の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 郷土の自然・文化・歴史への理解を深め、たくましく生きる力、豊かな心を育てる。
- (2) 生徒一人一人を理解し、主体性を生かし、積極的に学校生活を送る態度を育てる。
- (3) 基本的生活習慣を確立し、自ら判断し、行動する態度と能力を育てる。
- (4) キャリア教育の充実を図り、適性や進路に対する理解を深め、自ら学ぶ意欲を育てる。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	- 授業公開句間や研究授業を行い、授業改善は進んでいる。 - 評価記載欄を設け、使えるシラバスを目指して年度当初に改善を行った。 - 授業外学習時間は微増。1年生ではClassiを使った学習に取り組んだ。 - 教育課程委員会を中心に、校内研修などで全教員で取り組んだ。	- 今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 - 生徒や家庭の目標に左右されるものであり、対応に苦慮することもある。 - 家庭学習の時間が増えないのは、生徒が目的や目標を持てていないからでしょうか。小中学校での教育も重要なので、連携が必要である。
改善方策	- 新学習指導要領も踏まえ、今後も継続して授業改善に努めていく。 - シラバス活用の仕方について工夫し、年度初めに講習会を開き、活用を促していく。 - 各学年、教科に実践を共有し、学校全体でClassi活用して、授業外学習時間を増したい。 - 生徒や地域、学校の状況を常に考え、常にPDCAを行っていく。	
生徒指導	- 情報共有が不足し、対応が後手に回り、連携が不足する場面があった。 - 外部での交流会を通じて、他校の実態を知り、本校に取り入れられるものを検討中である。 - 町の事業に対して、積極的に取り組んでいる。 - 各学年で個人面談を実施し、生徒の実態把握に努めている。 - 今年度は、いじめの認知がなかった。	- 今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 - 家庭の理解や姿勢が重要であり、学校の力だけでは限界がある。 - コロナの影響がなかったとしたら何ができていたでしょうか。ネットワークを活かして有効な対策を今からぜひ準備してください。
改善方策	- 報連相の徹底。いつ、誰に相談したら良いのかを理解し、対応に努める。 - 外部の関係団体の交流会や研究会を通じて視野を広げ、本校の特徴を見出していく。 - 今後も複数の手段で対処方針や指導計画を明確にする。 - 現状の取り組みを維持し、学年と教育相談委員会との連携を密にし、生徒理解に努める。 - いじめ防止基本方針に基づき、迅速に対応することが基本だが、予防に努める。	
進路指導	- 進路決定状況について、結果待ちの生徒や、これから受験する生徒もいるが、おおむね実現した。 - 多くの先生方のご協力によって進路実現へ向けた取組が行われていたが、分掌や学年での取組や生徒の状況が全体へ周知しきれていない場面があった。 - 地域の企業や、各種上級学校の協力の下、多くの体験活動や講演を実施し、職業観・勤労観を高めることができた。	- 今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 - 進学先の停滞が本校への進学者数の低下につながっているのではないかな。 - 自己の将来について考えることについては、常に意識してほしい。
改善方策	- 今後も生徒の実態にあわせて効果的な指導をしていく - 生徒情報の共有を徹底するとともに、各種進路行事の詳細な引き継ぎなどを行う。 - 次年度以降は、総合的な探究の時間をどのように運用していくか、進路行事の精選も含めて検討していく必要がある。	

健康安全指導	良好である。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・生徒の犯罪がないのは素晴らしいこと。
改善方策	・今後も継続的に効果的な情報を発信し、保健衛生の意識を高めていく。 ・体験活動を重視し、防犯、防災の必要性を実感が伴う取り組みで高めていく。	
働き方改革	・業務の見直しの観点が曖昧であったため、一部進んでいない部分がある。 ・部活動休養日の実施については、概ね良好である。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・生徒との対話の時間確保のためにも、学校全体で取り組んで欲しい。
改善方策	・1学級完成にともなう教職員定数との関係から、学校として実施できることを明確にし、一層の見直しを図る。 ・長期休業中も含め、継続して完全実施を継続するよう努める。	
信頼される学校づくり	・保護者との電話連絡、学校・学年通信、学校HPなどを通じて、機会あるごとに情報を発信している。 ・小中学校との連携について、検定試験や教科により連携を図っているが、学校全体としての連携が不足している。 ・地域との連携のもと教育活動を実践することができている。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・ホームページの活用を研究してほしい。 ・先生方一人ひとりが発信者として意識を持っていく必要があります。
改善方策	・情報発信ソールのさらなる工夫を模索し、適時に発信できるように努める。 ・出前講座など、高校の教育力を小中学校に発信し、連携して地域の子どもたちの育成に努める。 ・今後も継続して、地域とともに教育活動を実践していく。	
組織運営	・校内研修をとoshi、育成する生徒像について共有を図ることができた。 ・課題把握と情報共有の意識が高まりつつある。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。 ・本校のグランドデザインが適正化否かの検証が必要である。 ・少人数だからこそ、生徒一人ひとりに目を向け、全教員が生徒と向き合い、情報共有することが大切である。
改善方策	・本校教育のグランドデザインを早急に検証し、一層の共有を図る。 ・日常的な情報共有が図られるよう働きかける。	
教職員の資質向上	・服務規律の遵守は良好である。 ・各教科において、日常的に授業改善に取り組み、授業力が向上している。 ・校外研修等に積極的に参加し、生徒へ還元している。	・今年度の取組や自己評価、改善に向けた取組についておおむね適切である。
改善方策	・今後も機会あるごとに服務規律の遵守について啓発していく。 ・課題把握・共有をさらに図り、分掌・学年と連携し早期解決に向け取り組む。 ・先進校の授業を参観するなど、情報収集を図るとともに、教科間連携を推進する。 ・成果を教員間でも共有し、教員の生徒への指導力向上に努める。	